

城を攻めて是を伊豆に領け領地が増—
て三方石を宛行せとあり

羽源記曰に方塗田より—て峯高く狭きハ
山川の流あり庶源峯より—一方ハ方—昭
官あり堀を深く堀切山の内を廣く大木
松多生あり山氷沢山より—て要害よし屍
より一面親善あり田村將軍より丸と合戦
—あり時夷賊退治の初より長谷の親善を
勅後—あり—とあり又曰昔田村丸利仁と
安信より丸と軍の田中軍教度折返して僅に

跡。をを陸へ利仁は所は隠れあふて時高
丸の昇亦に藤谷茂行といふ別のもの教子
駿よて追懸せりと長谷堂合戦の条下に
見へり

八幡中紀薩奥に結ぶ府八幡宮の条下に
桓武天皇延暦二十年陸奥に夷賊より丸と
いふものの達谷堂より起りて駿河に結んり
関を攻めんとあり後書を考へに延暦二
十年に田村丸征夷とあり五代並にハ
城守当城を夷々々半前光頼より—